

エコアクション 21

# 環境経営レポート

2022 年度



対象期間 2022年8月～2023年7月

2023年12月26日発行

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

有限会社平出製作所はエコアクション 21 の活動を通じて持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

## 目次

1. 会社概要
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 2022 年度環境経営計画
6. 取組結果の評価と次年度の取組内容
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
8. 代表者による全体評価と見直しの結果

## 1. 会社概要

### 1.1 事業所名及び代表者名

有限会社 平出製作所

代表取締役社長 平出 正彦

### 1.2 事業所の所在地

長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪 4356

### 1.3 事業内容

金属プレス加工、金型加工、精密板金加工などの金属加工品の設計・試作品及び、1個から量産品まで対応

### 1.4 環境管理責任者及び、担当者連絡先

環境管理責任者 平出 哲夫

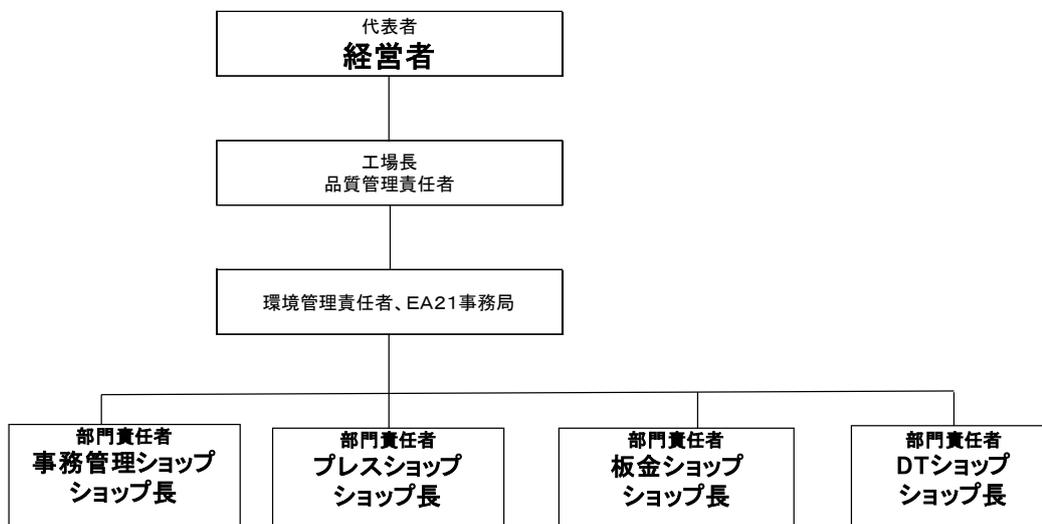
連絡先

電話 0265-79-2507

FAX 0265-79-0222

E-mail [info@hiraide-ss.jp](mailto:info@hiraide-ss.jp)

## 1.5 環境管理実施体制



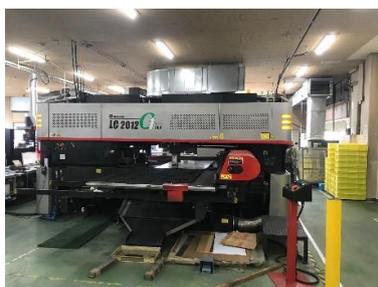
役職	責任および権限
代表者	<ol style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の任命及び環境方針の制定</li> <li>環境経営システムの評価と見直し・指示</li> <li>経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。</li> <li>実施体制を構築し、各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員に周知する。</li> <li>エコアクション21を運用し、維持するための経営資源を用意する。</li> </ol>
工場長	<ol style="list-style-type: none"> <li>代表者の補佐、及び環境管理責任者、EA21事務局のバックアップ</li> </ol>
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの確立、実施</li> <li>代表者への環境経営システムの実施状況報告</li> <li>業務、役割に応じ、教育訓練を計画実施する</li> <li>環境活動の公表、外部からの必要な対応を行う</li> <li>環境活動状況の定期的見直しの実施</li> </ol>
EA21事務局	<ol style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムへの取り組み状況を把握し、目標及び活動計画を策定実施する</li> </ol>
部門責任者	<ol style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善する</li> </ol>
従業員	<ol style="list-style-type: none"> <li>環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画等に基づくEA21活動の実施</li> <li>EA21活動に関する改善提案</li> </ol>

## 1.6 事業の規模 (2022 年度)

売上高	350 百万円
主要製品	プレス・精密板金による金属加工品
敷地面積	3,000 m <sup>2</sup>
延べ床面積	1,450 m <sup>2</sup>
従業員数	26 名 (2023 年 7 月末現在)

## 1.7 主要設備

プレス機械	14 台 (能力 3~150 t)
N/C プレス	1 台
レーザ加工機	1 台
ワイヤーカット	1 台
フライス旋盤	1 台
レーザ複合機	1 台
自動バリ取り機	2 台
自動洗浄機	1 台
N/C ベンダー	3 台
自動曲げロボット	1 台
N/C タッピングセンター	2 台



パンチ・レーザ複合機 LC2012C1



自動曲げロボット EG6013AR



自動バリ取り機 AuDeBu1000

## 2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

### 2.1 対象範囲

全組織、全活動

### 2.2 レポートの対象期間及び発行日

表紙に記載

### 3. 環境経営方針

#### 基本理念

当社は、金属プレス加工・精密板金加工の事業活動を通じて、社員一同地球環境の保全を最重要課題の一つとして認識し、企業活動は全ての面で、地球環境の保全と調和に取り組み、以下に示す活動を継続していくことにより地球にやさしい企業を目指します。 

#### 行動指針

1. 当社では、金属プレス加工、板金加工等の全ての事業において、「不良の流出ゼロ」を目標に掲げ、資源の有効利用、省エネルギー、廃棄物の抑制を考え、環境保全活動の継続的改善を行います。 
2. 当社では、水使用量の削減、廃棄物、排水量の削減、二酸化炭素排出量の削減、化学物質の不使用を優先的に活動します。 
3. 当社では、環境保全に関する法律、条令、規制を遵守します。 
4. 当社では、社員一同が環境保全活動に取り組み、グリーン製品を優先的に購入します。 
5. 環境配慮製品の開発、設計改善点を発注者に対して積極的に提案します。 
6. 当社では、環境保全活動を、工場周辺道路脇の草刈や、水路の堰浚いなどを行い周辺地域とコミュニケーションを図り、地域社会に貢献します。 
7. 環境経営方針、環境経営レポートを公表し関係者の理解協力を求めています。 

2019年 4月 5日 制定

有限会社平出製作所  
代表取締役社長 平出 正彦

## 4. 環境経営目標

作成年月日： 2022年 9月 30日

No	環境方針項目	環境目標取組項目	※ 基準値 2018~2020年度 実績の平均	CO2 換算係数	年度目標			
					2021 年度	2022 年度	2023 年度	
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 ①電力管理の徹底 ②照明管理の徹底 ③空調管理の徹底	電力使用量		基準値に対し 1.0 %削減	基準値に対し 1.0 %削減	基準値に対し 1.0 %削減	
			255,331 kWh/年	0.496	252,778 kWh/年以下	252,778 kWh/年以下	252,778 kWh/年以下	
	化石燃料消費量の削減	①エコドライブの励行(燃費向上) ②冷暖房機器管理の徹底	油種別消費量		基準値に対し 1.0 %削減	基準値に対し 1.0 %削減	基準値に対し 1.0 %削減	
			灯油 <L/年>	2.490	4,689 L/年以下	4,689 L/年以下	4,689 L/年以下	
			LPG <kg/年>	3.000	2,038 kg/年以下	2,038 kg/年以下	2,038 kg/年以下	
			ガソリン <L/年>	2.320	2,329 L/年以下	2,329 L/年以下	2,329 L/年以下	
		軽油 <L/年>	2.580	1,672 L/年以下	1,672 L/年以下	1,672 L/年以下		
		計(kg-CO <sub>2</sub> )	154,427 kg-CO <sub>2</sub> /年以下	152,882 kg-CO <sub>2</sub> /年以下	152,882 kg-CO <sub>2</sub> /年以下	152,882 kg-CO <sub>2</sub> /年以下		
2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物のリサイクル及び最終廃棄物の削減	①紙類使用料の削減 ②分別の徹底	産業廃棄物排出量		基準値に対し 1.0 %削減	基準値に対し 1.0 %削減	基準値に対し 1.0 %削減
			11.1 m <sup>3</sup> /年	11 m <sup>3</sup> /年以下	11 m <sup>3</sup> /年以下	11 m <sup>3</sup> /年以下		
3	水使用量の削減 <水道使用量・m <sup>3</sup> >	①水使用量の削減 ②洗浄作業の合理化	水道使用量		基準値に対し 1.0 %削減	基準値に対し 1.0 %削減	基準値に対し 1.0 %削減	
			163 m <sup>3</sup> /月	161 m <sup>3</sup> /年以下	161 m <sup>3</sup> /年以下	173 m <sup>3</sup> /年以下		
4	グリーン購入の推進 <エコ商品購入額/総購入額>	①環境配慮資材の購入 ②環境配慮事務用品等の購入 ③環境配慮電気・電子製品の購入	エコ商品購入率		エコ商品購入率	エコ商品購入率	エコ商品購入率	
			44%	45%以上	45%以上	45%以上		
5	環境配慮製品・サービスの提供	①クレームの削減 ②歩留まりの向上 ③生産性の向上 ④環境配慮製品の開発・改善点の提案	クレーム					
			50件	40件	40件	40件		
6	環境教育の促進	①環境経営方針・目標の徹底 ②環境経営の必要性確認	—					
7	環境コミュニケーション	①周辺道路、水路の草刈り	—					

本環境目標設定表は、毎年度見直すものとする。

※ 納品機会の増加に伴うガソリン等の使用増加及び、近年のエネルギー使用量を鑑み2021年度に基準の見直しを行った。

尚、基準値は2018年度~2020年度の実績値の平均とする。

※ 水使用量については、2022年度より水道水を利用した洗浄機導入により使用量の増加が見込まれる為、2023年度目標は2022年度実績値-1%を目標数値とした。

※ P R T R 法適用化学物質の使用はありません。

## 5 環境経営計画

2022年度：2022年8月～2023年7月

		取組項目	責任者	担当者	取組内容
二酸化炭素排出量の削減	1) 電力使用量の削減	①電力管理の徹底 ②照明管理の徹底 ③空調管理の徹底	事務局	各シヨ ブ長	①・②・③ ・休憩時間は工場内の消灯 ・空調温度管理(夏季28℃、冬季22℃) ・空調使用時10時、14時に使用延長の確認(付けっ放しにしない) ・使用していない部屋の空調停止 ・コンプレッサー配管エア漏れ点検、修理 ・稼動機以外の機械は電源を切る
	2) 化石燃料消費量の削減	①エコドライブの励行(燃費向上) ②冷暖房機器管理の徹底	事務局	各シヨ ブ長	①・② ・納期を遵守し、まとめて配送する ・行き先が同じ方向ならばまとめて納品する ・日直が灯油当番を行い、必要最小限の補充をする
廃棄物排出量の削減	1) 産業廃棄物排出量の削減	①紙類使用量の削減 ②分別の徹底	事務局	各シヨ ブ長	①紙類使用量の削減 ・会議用資料や事務手続書類の簡素化に取り組む ・打合せや会議の資料等については、ホワイトボードやプロジェクターの利用により、ペーパーレス化に取り組む ・印刷物を作成する場合は、その部数が必要最小限の量となるように考慮し、残部が出ないように配慮する ・コピー用紙、コンピューター用紙、伝票、事務用箋、印刷物、パンフレット、トイレトーパー、名刺等の紙について、再生紙または未利用繊維への転換を図る ・使用済み用紙、ポスター、カレンダー等の裏紙が活用できる紙は可能な限り利用するよう工夫する ・シュレッダーの使用を機密文書等に限る、シュレッダー処理紙のリサイクルに努める ②分別の徹底 ・紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により分別を徹底
水使用量の削減		①水使用量の削減 ②洗浄作業の合理化	事務局	各シヨ ブ長	①水使用量の削減 ・手洗い時、洗い物においては、日常的に節水する ・凍結時の元栓、蛇口の確認(凍結により水が出ない場合でも必ず閉めること) ②洗浄作業の合理化 ・水道水での水洗いを削減し、洗浄器を使用する ・洗浄薬品は、交換頻度を見直し使用料の削減を行う
グリーン購入の推進		①環境配慮資材の購入 ②環境配慮事務用品等の購入 ③環境配慮電気・電子製品の購入	事務局	各シヨ ブ長	①環境配慮資材の購入 ・再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用する ・カーボン・オフセットに取り組んでいる商品やサービスを購入または使用する ・再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入する ②環境配慮事務用品等の購入 ・環境に配慮した物品等の調達に係る方針、基準等を作成し、それらに基づき物品リストを作成し、リストに基づく購入を行う ・環境ラベル認定等製品を優先的に購入する ③環境配慮電気・電子製品の購入 ・省エネルギー基準適合製品を購入する
環境配慮技術の確立		①クレームの削減 ②歩留まりの向上 ③生産性の向上	事務局	各シヨ ブ長	①・②・③ ・検品作業の確認、徹底 ・前処理、前加工の作業の確認、徹底 ・品質向上計画を策定し、実施する

6 環境経営目標の実績並びに取組結果の評価及び次年度の取組内容

2023/12/26

環境経営目標の実績			評価及び次年度の取組内容	
1、CO2削減			評価	次年度の内容
①電力消費量削減 目標 252,778 kWh	実績 304,287 kWh	×	目標数値を達成することができなかった。生産量増加に伴い、設備の稼働時間が増えた為、エネルギー使用量も増加してしまった。不要な電力の削減の為、使用しない機械の電源を切る、照明や空調のこまめな管理はできた。	機械設備による消費電力が大きいため、各ショップで機械稼働時間やアイドリング時間の削減に向けて話し合い、更なる消費電力の削減に努める。こまめなON、OFF等電力管理の徹底、照明管理、空調管理の実施を引き続き行っていく。
②化石燃料消費削減 (イ)ガソリン 目標 2,329 l	実績 2,487 l	(イ)×	遠方への配送の機会が増えたため、ガソリンの使用量は増加したが、極力まとめて配送する等納期の調整は行った。 気温によって、空調設備の利用が増えたため、燃料の使用量が増加したが、午前・午後で使用状況を確認し、こまめな管理はできた。	電気同様、空調機についても引き続き最小限の使用とし、無駄な使用を控えるため、こまめな管理を引き続き行っていく。
(ロ)軽油 目標 1,672 l	実績 2,237 l	(ロ)×		
(ハ)ガス 目標 2,038	実績 2,218 kg	(ハ)×		
(ニ)灯油 目標 4,689 l	実績 4,165 l	(ニ)○		
CO2削減 目標 152,883 kg-CO2	実績 179,493 kg-CO2	×	全体的にエネルギー使用量が増加した為、目標数値を達成することができなかった。	引き続き、各項目ごと使用量の削減に努める。
2産業廃棄物排出量削減 目標 11 m <sup>3</sup>	実績 7 m <sup>3</sup>	○	包装材の再利用や、廃棄物の分別に努め目標達成できた。	引き続き分別の徹底、出荷梱包時のビニール袋、更なる包装紙の再利用を進める。
3水道水使用量削減 目標 161 m <sup>3</sup>	実績 175 m <sup>3</sup>	×	水道水を利用した洗浄機設備の導入より使用量は増えたが、作業効率は大幅に改善された。	設備導入より通年での使用量がみえてきた為、次年度の目標数値は今年度-1%とする。引き続き節水に努める。
グリーン購入の推進	事務用品の環境配慮品購入エコ商品割合45%以上	○	事務用品の購入時にはグリーン商品の購入できた。	引き続きグリーン商品の購入を推進する。
環境配慮製品、サービスの提供	不良品の対策、再発防止、クレーム数40件以下 【実績】63件	×	曲げ、ザグリ等でヒューマンエラーによる不良の発生及び外観不良の増加により目標数値を達成できなかった。	各工程ごとに不良発生項目を明確にし、引き続き不良撲滅に努める。毎月発生項目を品質会議で共有し、再発防止に努める。
環境教育の推進	環境経営方針、環境経営目標の徹底。環境運営の必要性確認。	○	計画通り実施出来ました。	引き続き環境運営の確認を行っていく。
環境コミュニケーション	工場周辺道路、水路の草刈り、堰浚い。	○	計画通り実施出来ました。	引き続き工場周辺道路脇の草刈り、ゴミ拾いを行う。

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、中部電力2017年の調整後排出係数0.496kg-CO2を用いた。

## 7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規名	遵守事項	確認結果
産業廃棄物の処理	廃棄物の保管管理	産業廃棄物処理業者へ委託
	収集、運搬、処理業者への委託締結	
	マニフェストの管理	
	管理票の発行及び公付状況の報告	
箕輪町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	決められた通りの処理	
騒音規制法	騒音規制基準の遵守	箕輪町は指定地域では無いので当社の適応は無
箕輪町公害防止条例	特定施設の設置、変更の提出	箕輪町指定様式にて提出済み
振動規制法	振動規制基準の遵守	箕輪町は指定地域では無いので当社の適応は無
消防法 上伊那広域連合火災予防条例	危険物貯蔵所設置、変更の提出	箕輪町消防署に提出済み
家電リサイクル法	対象機器を破棄する場合、再商品化の適正な引渡し	適正業者に引き渡し、適正処理する
自動車リサイクル法	対象機器を破棄する場合、再商品化の適正な引渡し	適正業者に引き渡し、適正処理する
フロン排出抑制法	使用済みフロン類を第一種フロン類回収業者に引き渡し、回収依頼書を3年間保存する	適正業者に引き渡し、適正処理する。3か月に一度室外機の点検を行う

当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認しました。  
又、当社の環境管理に対する利害関係者からの訴訟又は関係当局指摘等は過去有りません。

引き続き環境活動に努めてまいります。

## 地域貢献活動

- ・会社の周辺は田畑が広がっているのですが、毎年、春・夏に側溝の堰浚いや周辺道路の草刈りを行っています。



堰浚いの様子



草刈りの様子

- ・毎週木曜日のクリーンの時間(自主的な改善活動)を使って、工場周辺の草むしりを行いました。



・箕輪町のふるさと納税返礼品も制作し、協賛しています。



箕輪町ご当地キャラクター もみじちゃん



・カップ麺フタ押さえ



・スマホスタンド

もみじちゃんをモチーフにした小物を制作し、箕輪町のPR活動を行っています。

## その他 環境への取り組み

- ・2023年3月度の品質会議時にSDGsについて社内勉強会を行いました。SDGsとは何かといった内容の勉強や、当社とどのような関わりがあるか、環境経営方針とどのように結びついているか等を資料をもとに学びました。エコアクション21の活動がSDGs活動に繋がっていることを社員一同学べる良い機会となりました。



## 8 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 環境経営方針の変更の必要性( 無 )
2. 実施体制の評価及び見直し・指示の必要性( 無 )
3. 環境経営目標の変更の必要性( 有 )

作業効率の改善化を図り、新たな設備を導入した。その結果、作業効率は大幅に改善されたが、エネルギーの使用量は増えてしまった。今後も加工の自動化によるエネルギー使用量の増加は考えられるため、目標数値の見直しは必要であると考えられる。
4. 環境活動計画及び環境経営システム等の変更の必要性( 無 )

環境について改善意識、行動が定着できている。引き続き活動を継続すること。

### 【総評】

年々生産量も増え、売上を伸ばすことができているが、その反面、エネルギー使用量が増加しているため、環境経営との両立はなかなか難しい。また、エネルギー価格の高騰も大きな痛手である。

これからますます自動化が進むと、エネルギー使用量の増加も考えられる。機械の稼働が増えれば、エネルギー使用量も増加することは致し方ないことではあるが、その中でどれだけ環境意識を持てるかが、大事である。

日常的な照明、空調等の管理は浸透できていると感じている。より余計なエネルギー使用量を削減するため、ロスをなくす、不良を削減することを従業員一丸となって頑張ってもらいたいと願う。